

リュウマチの鍼灸治療

愛媛県鍼灸師会特効穴検討班 班長 池田啓二

1、 まえおき

東洋医学では、内経に痺症として風寒湿が体内に侵入して起こると言われており、関節リュウマチは、初期症状として関節のこわばりが朝方起こり、痛むのであり、自己免疫疾患として抗体と呼ぶタンパク質ができて、体の正常な組織を攻撃するのである。

要旨

リュウマチ疾患は自己免疫疾患の一つであり、自己の成分を敵とみなして抗体を作り、攻撃をします。関節の部位に痛みや腫れを出して炎症を引き起こしてきます。リュウマチ熱の場合は、溶連菌が侵入して抗体ができるし、心臓の筋肉と溶連菌が結合して、リュウマチ熱を起こし、老化や出産でも免疫力が低下してリュウマチになる。治療法は、腎虚証の症候群として復溜穴に補鍼をして、患部は散針です。結果として、大学病院の検査でCRPとリュウマチ因子の検査値が低下して予後も良好となる。

キーワード、抗体、リュウマチ因子、CRP、散ずる鍼

2、 リュウマチの症状と原因

微熱が続いて疲れやすい体となり、体がだるくなり、関節に症状が現れて紡錘状に腫れてきます

免疫異常が考えられ、免疫が正常に働いているときは、体の中に異物や細菌が侵入すると白血球が食べて無毒化して健康な状態を保つことができる。しかし 免疫システムに異常が起きると自己の成分を敵とみなし、抗体を作り、攻撃を続けてしまいます。関節の場合は、関節部分に炎症を引き起こして攻撃をやめずに続いて症状が起こります。

リュウマチ熱の場合は、原因が異なり、溶連菌が体内に侵入した時、抗体ができて無害化しようと働きます。その時、心臓の筋肉と結合するときがあり、心臓の筋肉と溶連菌の成分が似ており、リュウマチ熱をひき起こします。次に老化や出産で体力の抵抗力が進行すると免疫の調整がむつかしくなり、リュウマチになる。

3、 リュウマチの治療法

東洋医学的治療として、即痛みが取れて楽になる方法をします

診断では、望診、問診、触診、腹診、脈診をして診ると腎虚証が

多いのであり、復溜穴に補診をして、患部は、散ずる鍼でします。

4、 症例 1、62歳 女性、沈脈で体の冷えを感じて腎虚証と診断して治療する。病院の検査では、CRP、リュウマチ因子の検査値が低下して良好となる。

5、 考察、予後

検査の結果がよければ、痛みがなくなるし、喜んで続けてくれます。

1ヶ月に1回位に来院して症状は、良好であり、今後も続くとお思います。

リュウマチの患者は、ほかにも何人もおりますが、薬を飲まない方法で治したい患者が多いのである。

6、 まとめ

リュウマチ因子が、あるけれど、リュウマチ因子と CRP の検査値がよくなる

^[1]とは、体質改善の方法として東洋医学の治療が最適と考える。（文責 池田）

7、参考文献

① 高橋昭三 外1名 慢性関節リュウマチのすべて 南江堂 1975年6月

② 藤本十四秋 人体発生学入門 南山堂 1975年3月

③ 井上 恵理 鍼灸臨床講義 古典研究会 1971年1月

④ 谷奥嘉平外3名 皮膚と免疫、アレルギー 金原出版 K.K 1974年6月

⑤前山和弘 膝の痛み、たちまち軽くなる ナショナル出版 2014年8月